



FOOTBALL CLUB
MITO HOLLYHOCK

ソーラーシェアリングを活用した「GXプロジェクト」

株式会社フットボールクラブ水戸ホーリー・ホック

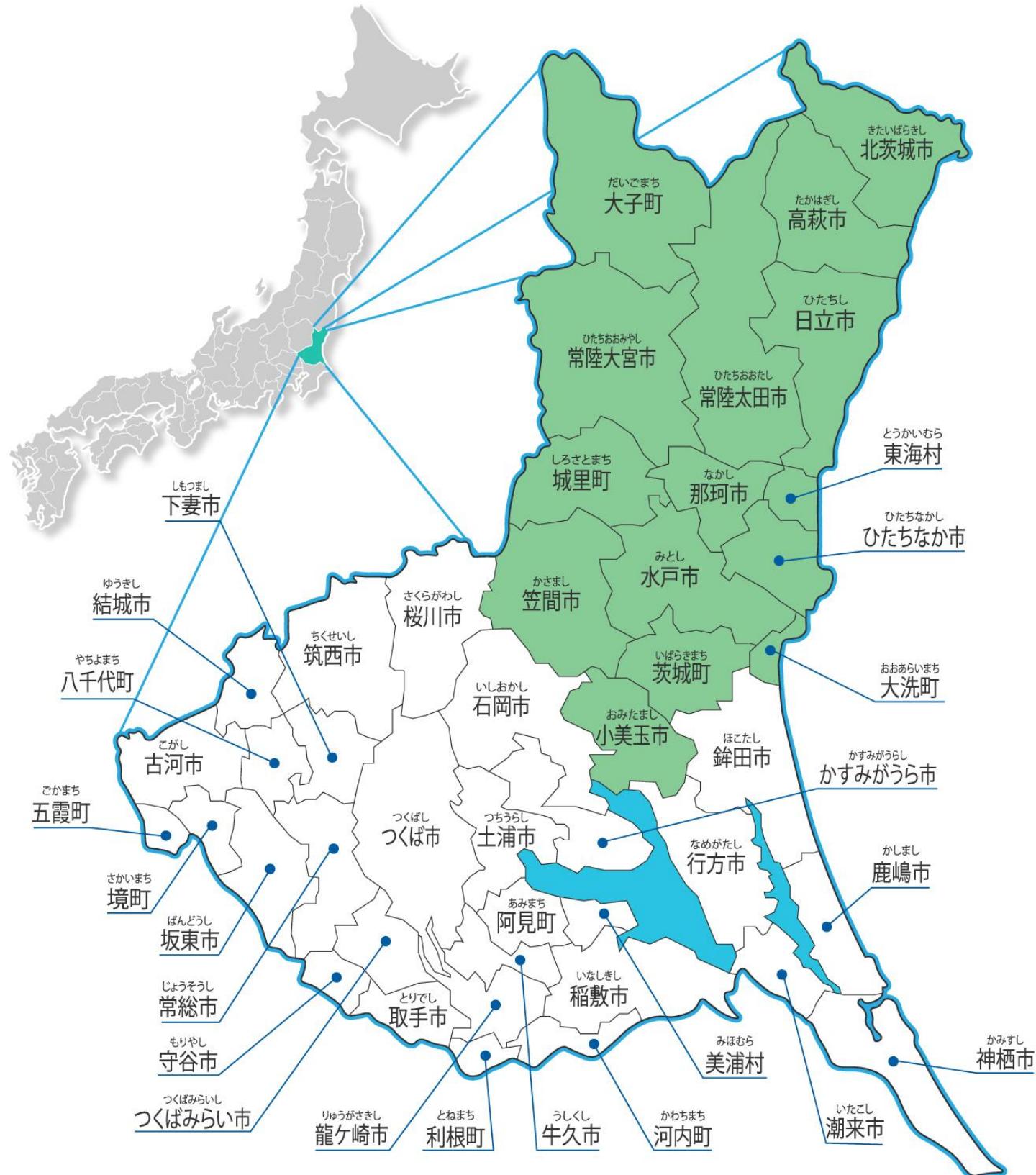
クラブ紹介

プロフィール

クラブ名	水戸ホーリーホック
運営会社	株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック
創設年	1994年
所属リーグ	日本プロサッカーリーグ (J1リーグ)
主なタイトル	J2リーグ優勝 (2025)
ホームタウン	水戸市、日立市、ひたちなか市、 笠間市、那珂市、小美玉市、 北茨城市、常陸太田市、 常陸大宮市、高萩市、茨城町、 城里町、大洗町、大子町、東海村
スタジアム	ケースデンキスタジアム水戸



ホームタウン（活動拠点）



茨城県
県央 (9市町村)
県北 (6市町)
ホームタウン15市町村人口合計：
約102万人

農事業 GRASS ROOTS FARM (GRF)

2021年9月、茨城県の地域課題である農業問題（農家の高齢化、耕作放棄地の増加 etc.）に向き合うため、城里町で圃場を借りて**農事業 GRASS ROOTS FARM (GRF)** をスタート



【GRFの3つのコンセプト】

1. PRODUCTSを作る：

私たち自身で、畑を持ち、土を触り、土づくりから栽培、収穫、（時には加工）、販売までを行う

2. PRODUCTSを支援する：

農業で地域を盛り上げようとしている方々を、広報や販路を増やすという側面から支援していく

3. JAと共に地域を発展させる：

農業から地域を元気に発展させていく

参加型農業を展開



クラブスタッフ、アカデミーコーチ、ときにはトップチームの選手も参加して、ニンニクなどの栽培に挑戦

サッカースクールに通う子供たちを対象とした田植え＆稻刈り体験や、地域の方々との交流の機会の創出

ファン・サポーターも巻き込み、参加型＆体験型アクティベーションにすることで、農場に新しいコミュニティを創出

気候アクション

-GXプロジェクト-

2024年5月
新規事業「GXプロジェクト」発表



GXプロジェクト
ソーラーシェアリング



GXプロジェクトを
ユニフォームのテーマに採用



世代を超えたメンバーで
パネルディスカッションを実施



社会課題

大気汚染

地球温暖化

気候変動

地域課題

農家の高齢化

耕作放棄地

経済の衰退



社会課題



地域課題



地域の耕作放棄地を再活用し、
ソーラーシェアリングを活かして
地域循環共生圏を創る

電気と農作物の地産地消

電気

自家消費

「電柵・充電式草刈り機

地域へ売電

「地域で使う電気にすることで自走社会を確立



自治体との協働

「城里町の道の駅2ヶ所の電気としての活用（両施設の約30%ずつを網羅）」

農作物

有機JAS取得を目指す

「化学肥料を使わない農業
有機農業に取り組む方々との
コミュニティ形成」



農作物の販路支援

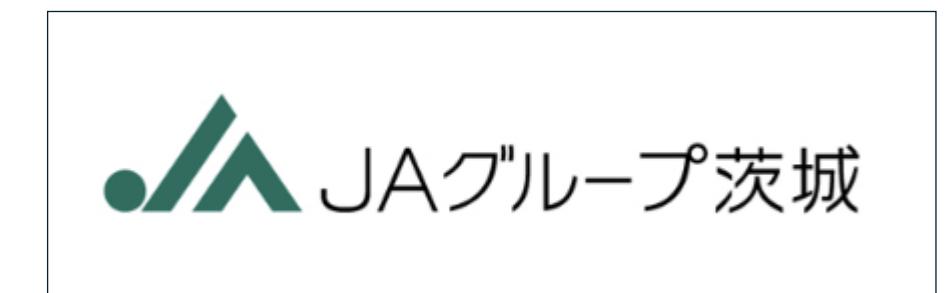
「ホーム試合での販売
サブスクBOX化」



「地域循環共生圏」水戸モデルの相関図



**GX
PARTNER**



再生可能エネルギーによるCO2削減

▶年間発電量：

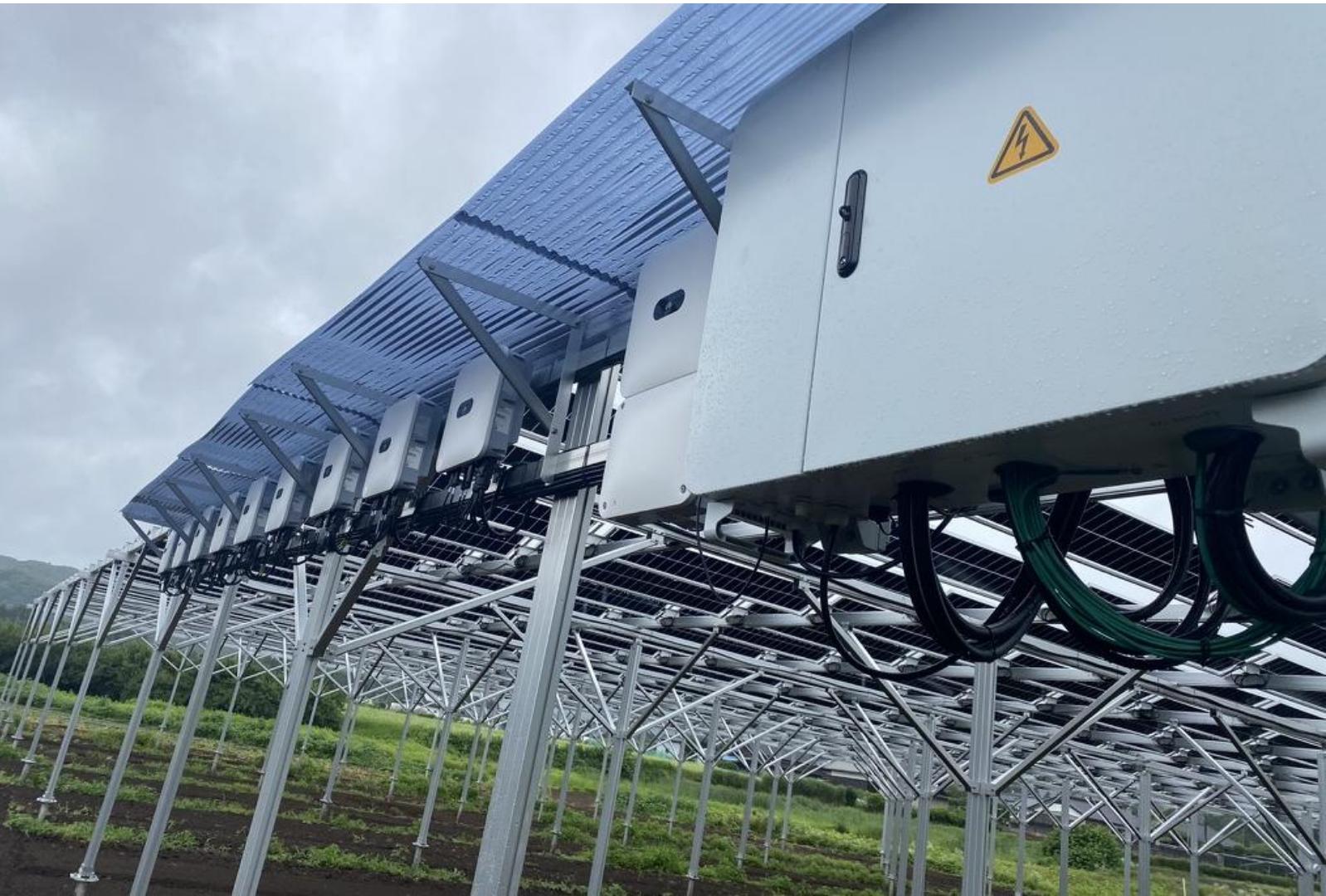
水戸ホーリー・ホックのGXプロジェクトでは、ソーラー・シェアリングの太陽光発電で約 **9万kWh** (見込)



これによる年間のCO2削減量：

38.07t-CO2

※東京電力から電気を購入すると約38tのCO2が排出されるが、再エネを使用した場合、その分が削減となる計算



▶ Jリーグの持つ可能性

現在はJ1～J3リーグまでの60クラブが、41都道府県に存在しており、ホームタウンとして日本全国の87%の自治体として連携を取っている

全 **60** クラブ **41** 都道府県 **87** % 自治体

▶今後への期待 :

Jリーグがプラットフォームとなり、全国のJクラブへ情報を展開することで**“水戸モデル”**が広がっていき、各クラブが各地域で、それぞれのホームタウン自治体やパートナー企業様を巻き込みながら、好事例を横展開していくこと

未来の地球
に良いパスを





新しい原風景をこの街に

株式会社フットボールクラブ
水戸ホーリーホック

執行役員／GM補佐／事業統括本部長
瀬田元吾